

『原爆文学研究』投稿規定

一、原爆文学研究会の機関誌として会員からの意欲的な投稿を歓迎します。会員以外の原稿掲載については編集委員会で判断します。

二、投稿に際しては、住所・電話番号を明記の上お送り下さい。原稿は返却いたしませんので、お手元に控えをお残し下さい。

三、パソコン等を使用の場合はプリントアウト原稿にデータファイルを添付の上お送り下さい。

四、原稿は、新字のあるものはなるべく新字を用い、注の形式等は既刊のものに準拠してください。

五、投稿者は各自の原稿一頁（機関誌の書式）につき一〇〇〇円を発行経費として負担することをお了承下さい。

六、次号（19号）の締切は、二〇二〇年九月三〇日です。

『原爆文学研究』編集委員

岡村幸宣 加島正浩 川口隆行
楠田剛士（編集長） 坂口博 中野和典
長野秀樹 野坂昭雄 堀本嘉子 柳瀬善治
山本昭宏（副編集長） 李文茹

編集後記

編集作業の最終盤、三八年ぶりにローマ教皇が来日する出来事がありました。そのフィーバーぶりにオバマ米大統領の広島訪問のこと

を思い出したのですが、教皇の核に関する演説と一連の出来事は強力な原爆言説として今後たびたび引き合いに出されると予感します。ヨハネ・パウロ二世のミサが青来有一の小説「人間のしわざ」などに描かれたように原爆

文学にも描かれていくかもしれません。さて、本号では批評欄に七本の論文を掲載しました。多くは研究会の発表に基づくものです。本誌にまとまると個々の論文のユニークさが際立つ

のはもちろん、執筆者や発表日が別でも、作品の成立過程、運動・論争と表現の関係、戯曲に描かれる被爆者、外国人被爆者・被爆者の描かれ方など、問題の重なりも見えてきます。

特集は研究会で行った吉本隆明『「反核」異論』と青来有一『爆心』の二つの再読を企画しました。前者は当日の三名の報告に新たな論文を加えて構成しました。後者は当日の三名の報告と全体討論の報告で構成しています。

小特集として「テレビ・ドキュメンタリーと原爆小頭症」を組みました。映画と違ってテレビ・ドキュメンタリーは再視聴が難しいのですが、本号では丁寧な内容紹介があります。アフタートークは当日の発言記録（ドキュメント）として議論の詳細を知ることができます。会員外から登壇いただいた平尾直政氏、東塚磨氏、大牟田聡氏に感謝申し上げます。

二つの書評のうち一つは、本研究会会員の松永京子氏の単著です。ぜひ一読ください。巻末の詩まで充実した誌面を作ることができました。皆様にお礼申し上げます。（楠田剛士）

原爆文学研究

二〇一九年二月二日発行

18

編集

原爆文学研究会

〒440-0600

福岡市城南区七隈八一一九一

福岡大学人文学部

中野和典研究室気付

発行

（有）花書院

〒810-0011

福岡市中央区白金二一九一二

TEL 093-5506067

FAX 093-5504041

定価 一、二〇〇円（本体一〇九二円）

◇書店にない場合は「地方小出版流通センター扱い」とご指定の上、書店にご注文下さい。

◇継続購読は、花書院「原爆文学研究係」にお申し込み下さい。送料は無料となります。